

○社整審・交政審技術部会 第19回の主な意見

資料 1

主な記述箇所		ご意見
第1章	現状認識	生産性革命は時機やニーズを捉えたものであるが、効率を高めることで発生する負の側面(公平性やデジタルデバイド等)があることにも留意すべき。
		技術の下地は科学で、情報に焦点を絞っているが、素材や生命科学も進展しており、どうやって科学の中に展開していくのかについて、第1章の心構えで記載すべきでないか。
		社会実装に関して、高齢者のヒューマンエラーの可能性が高まっているが、何らかの防御の観点をに入れてはどうか。
		地震防災の危機感が薄れているのではないかと。被害想定を見ていると安心できない。危機感を出してもいいのではないかと。1995年の阪神大震災から20年たつが、これまでにできたこと、できないことを整理する必要があるのではないかと。
		国際関係の記述が前向きに書かれていることは良い。しかし、気候変動や防災については、例えば仙台枠組みの合意事項でビルドバックベターがあるが、そういったニュアンスが計画に入っていない。国際合意事項に対応した施策が必要ではないかと。
基本方針	土木や建築の技術は応用力に優れている。これらの技術を次の世代につなげるとともに、水平展開が必要で、基本方針に入れてもいいのではないかと。	
	人が見えてこない。人が行動するのを意識した文面にして欲しい。	
第2章	IoT、AI、BD	社会が縮小する中で、人の数が減る、計画の数を減らす、業務を減らすことを考えてもいいのではないかと。多角化の経済を考えてはどうか。複数分野で活躍できるようにしてはどうか。
第3章	技術研究開発関係	水産物の輸出を促進する上での開発を進めて欲しい。長期間鮮度保持が可能なコンテナ等ができれば、安価な海上輸送での輸出の可能性が広がり、海運の活性化にもつながるのではないかと。多様な姿に対応できる輸出技術を考えるべき。航空便でなくとも、鮮魚や活魚の輸送を実現すべき。
		第2章のメンテナンスはボリュームが少なく文章がわかりにくい。地下空間のメンテナンスも積極的に記述すべきではないかと。
		地下空間の下水道は、時々刻々と老朽化が進んでいる。埋もれているデータの活用が重要ではないかと。省庁連携として、道路、下水道は国交省だが、センサーが重要で、電線が地下に入ればモニターができる。
第4章	前文	司令塔機能について、技術の継承と投資の縦と横の軸があり、目標を設定することを考えてはどうか。
	好循環を実現する環境の整備	IoT、AI、ビッグデータにおいて、データがオープンデータであることが極めて重要。データが出てくることで、知見や取組が出てきてコラボが生まれる。どうオープンにして、どう使っていくのか。
		IoT、AI、ビッグデータを活用し、輸送分野の生産性が向上されることが想定されるが、その際、環境面(地球温暖化等)でどのくらい改善できるか、定量的な評価手法を考えていく必要。
		研究者の評価の部分は、研究者に対する評価とし、文脈も明確にされたい。
		研究者の評価については、大学の先生を積極的に評価しようとしているのか。
		研究者の評価の視点として、社会実装を入れて欲しい。

主な記述箇所		ご意見
第4章	国際展開	質の高いインフラ輸出に係る記述が明示的に書かれていない。
		日本の強みとして災害対応があり、国際展開に災害対応も含めるべきではないか。
		国際競争(海外案件の受注)において、心理的なアプローチをしていないのが日本。人の心に踏み込んで欲しい。
	人材育成	人材に関して、行政官が博士課程の学位を取ってはどうか。
		博士については、国交省も入ってアピールし、交流することで研究者の仲間入りをして欲しい。
		人材育成についても、技術の直接のユーザー(例として自動車メーカー)と、間接のユーザー(例として自動車のユーザー)で分けて考えることが重要。
		時代は変化し、若手のクロスアポイントも考慮すべき。企業と企業、企業と大学、大学と大学などの組み合わせがある。
	信頼の確保	安全・安心とあるが、安心は人の心の中に生まれるもので、技術が即、安心につながるわけではない。先日の地震で緊急地震速報が東京で出なかったが、速報が発出される条件等を知らない人の中には、技術的な不具合で速報が発出されなかったと誤解し、緊急地震速報体制に対し不信感を持っている人もいる。技術の概要等を国民にきちんと教えていかないと不安や技術不信を生む。国自らが困難でも自治体等他の機関で適切に対応すべきものである。
		評価の手段として、技術がきちんと社会実装されているかということが挙げられるが、技術を直接活用するユーザー(メーカー等)だけでなく、最終的に当該技術が社会実装されることで生み出されたサービスのエンドユーザー(利用者)による評価が重要なのではないか。
		セキュリティについては、インフラが問題になるのではないか。社会の耐性を高めることを考えるべき。
フォローアップ	本計画のような年限が決められた計画のサイクルであるが、年限の終了時に評価し、当該評価を踏まえ、次の計画につなげるやり方と、やらなければならないことをどんどん追加していくやり方がある。	
あとがき	自動運転については、これからの国土そのものが変わる大きなインパクトをもたらす技術であり、国土の転換点となりうるため、国家がこうなるのだということを考えて欲しい。	
	自動運転については、現状、高速道路や中山間地など限定的な利活用を想定している。自動運転やシェアリングの考え方は、都市の構造や計画に対しても影響を与えるものなのではないか。	
	スマートシティが重要で、新しい都市のあるべき姿。OECDでも30の取組があるが、日本のプレゼンスが低い。各省連携した取組を検討して欲しい。	